慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	新薬探索における提携の成功要因-日本製薬企業の場合-
Sub Title	
Author	中坪功(Nakatsubo, Isao) 浅川和宏
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1705号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1705

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論 文 要 旨

所属ゼミ	浅川　研究会	学籍番号	８００２８６３３	氏名	中坪　功

（論文題名）

新薬探索における提携の成功要因
－日本製薬企業の場合－

（内容の要旨）

日本の製薬企業は、長年にわたり規制による恩恵を享受してきた。しかし、近年になり薬価の切り下げや日米欧3極での ICH ハーモナイゼーション合意が行われ、今後グローバルに通用する新薬を上市出来ない製薬企業は、市場からの退出を余儀なくされるといわれている。

欧米の巨大製薬企業に比べリソースに劣る日本の製薬企業が生き残る道の 1 つとして、様々な相手との提携が重要であると考えられている。しかし、提携が実際の R&D 成果にどのように結びついているかについては必ずしも明らかになっておらず、実証研究も数多く存在しない。そこで本研究では、新薬探索レベルでの提携に焦点を当て、新薬探索のための提携をどのように成果として達成するかについて、特に成果の達成度別に成功要因を分析した。

日本製薬企業 22 社に対する実証研究の結果、以下の点が明らかになった。

1．　コミュニケーションの頻度は、提携により R&D 成果を挙げるための主な要因である。
2．　ゲートキーパーによる提携の推進力は、特許までの成果をあげるための主な要因となる。
3．　相手技術レベル、貢献度の同等性、技術の補完性や共通基盤といった技術的な要因は、R&D 成果をあげるためのための主な要因とはならない。
4．　自社の研究能力の高さは、提携で R&D 成果を挙げるためには負の影響を与える。

今回の研究により、提携で R&D 成果をあげるための要因は技術的な要素等のハードな面ではなく、コミュニケーションなどのよりソフトな面にあることが示唆された。